医療法人社団 唱和会

明野中央病院
AKENO CENTRAL HOSPITAL

2019年度

事業報告書

vol.13
2019年4月～
2020年3月

ホームページもご覧ください　http://www.akenohp.jp/　明野中央病院　検索
看護部ブログも更新中　フェイスブックもチェック！

病 院 理 念

医療・介護を通じ、患者さんの生活の質の向上に努める

基 本 方 針

一、家庭的な優しい医療・介護の実施に努めます

一、地域の皆様から安心・信頼される病院づくりに努めます

一、患者さんひとりひとりの権利を尊重するように努めます

一、たえず医療・介護の質の向上に努めます

一、地域の健康増進・病気の予防に努めます

ごあいさつ

理事長
中　村　英次郎

明野中央病院は、1974年に明野の開拓・団地の新造に伴い人口が急増する中で、整形外科医の中村 裕によって開設されました。中村 裕は医師として早朝から深夜まで診療・手術を行い、地域医療に邁進しましたが、一方で、先駆的な福祉工場である「社会福祉法人 太陽の家」を開設し、大分国際車いすマラソン大会の開催を提唱するなど、身体障がい者福祉にも尽力し、その功績は現在でも高い評価を受けております。

中村 裕は常々、「医療・福祉の最終目標は、人間がいかに生きがいを得るかということである」と語っていました。つまり、病気や怪我をされた方が、最新医療の技術で身体状況を改善させるだけでなく、元の生活、家庭・職場復帰をなし得るまで応援し、見届けるということです。たとえば、脊髄損傷の若者を手術し、車椅子に乗れるようにするだけでなく、退院後に笑顔で生活できるようにスポーツ活動を教え、仕事を紹介し税金を納付させ、一人の社会人として胸を張って生きていけるようになるまで見届けていたのです。この全人的で優しさに満ちた考えは、本院の病院理念である「医療・介護を通じ、患者さんの生活の質の向上に努める」に受け継がれています。

我が国は2025年問題を控え、医療・介護体系の改変が進み、病院は急性期、回復期更に慢性期と機能別に細分化された結果、複数回の転院や主治医の交替、療養の場所が自宅からどんどんと離れていくということは決して珍しいことではありません。施した最新医療、その後の介護の結果、本人やご家族の満足感が低いこともしばしば見受けられます。今こそ我々医療関係者は、結果として患者さんの生活の質の向上に貢献し得るかどうか、急性期の段階から常に念頭に置きながら行動し、退院後の生活まで、できる限り見届けていくことが肝要と考えます。

明野中央病院の職員一同は、創設者である中村 裕の考えを現在に活かしながら、責任のある医療・介護を実行していく所存でございます。今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。

ごあいさつ

院　長
木　下　　昭　生

「人生は山あり谷あり。人生には上り坂、下り坂、この２つの坂のほかに“まさか”という坂があります。」結婚式の挨拶で聞いたことがあるような台詞ですが、今の世界はCovid-19によりどんな小説家や映画監督でも予想できなかった“まさか”の大混乱に陥っています。７月末の時点では世界中で1,700万人以上の感染者、70万人以上の死者を数え、未曾有のパンデミックとなっています。特に欧米では全世界の死亡者の約半分を占め、その多数の死亡者をもたらした原因の１つとして医療崩壊が報告されている国もあるようです。また、感染の蔓延防止のため、国境閉鎖やいわゆる都市封鎖が多くの国で実施され、グローバル化を合い言葉に邁進してきた世界経済は大きなダメージを受け、いわゆるリーマンショックを超える株価の大暴落の可能性もささやかれています。わが国でも３万６千人の感染者、1,000人以上の死亡者が報告されています。治療法の確立していないこのやっかいな感染症に対して、特に大都市の基幹病院の医療関係者は、重症者の対応で毎日大変な思いで業務に従事されており心より敬意を表します。しかし、日本集中治療医学会によれば、日本の集中治療室や救急救命医は諸外国に比して決して充足しているとはいえず、感染者や重症者は欧米に比較しかなり少ないにもかかわらず、わが国でも医療崩壊が生じる可能性を指摘する専門家もいるようです。事実、欧米の大惨事の中でドイツだけは、死亡者が他国に比して少ない傾向にあり、その原因の一つとして集中治療室の充実があげられています。

2009年の新型インフルエンザでは、世界での大流行の中で日本は死亡者が極端に少なく「世界一の医療体制」を誇ったものですが、今回の新感染症には治療薬もなく、我々が感染への基本対策としていたマスクや消毒液も不足する中で戦わなければなりません。幸い、今回の第一波は欧米に比してアジアでは感染の拡大は小規模なものになりそうです。それでも、日本人のほとんどがCovid-19に対する抗体を持っていないという事実は変わりません。ワクチンや治療薬が開発されるまでどう持ちこたえられるか、まだまだ予断は許されません。

国は、財政再建を名目に社会保障費で徹底的な無駄の排除を行ってきました。例えば、将来の少子高齢化の進展を見据えて、医療費とりわけ急性期医療の削減に取り組んでいます。また、日本のCovid-19に対する問題点としてPCR検査の少なさが批判されていますが、その原因としてPCR機器自体、PCRにかかわる技師、そして検査までのプロセスに係わる保健所の人員の不足が指摘されています。Covid-19は若年者に比較して余力（抵抗力）がない高齢者で死亡率が高いことが知られています。日本が世界の中で孤立して“高齢者”にならないためにも余力も必要なことを学ぶべきだと思います。

2019年度の明野中央病院の事業報告書が完成しました。ご一読いただければ幸いです。

目　　次

病院理念　基本方針
ごあいさつ …… 理事長　中村英次郎　2
ごあいさつ …… 院　長　木下　昭生　3

地域交流会（ふくろうの会） …… 5
ボランティアの会 …… 6
病院概要 …… 7
施設基準 …… 8
職種別職員数 …… 8
病院沿革 …… 9
創設者　中村 裕 …… 10
学会・研修会への参加 …… 12
トピックス …… 14

部 門 報 告
医療安全管理室 …… 18
地域医療連携室 …… 19
こつ・かんせつ・リウマチセンター …… 20
診 療 部
内　　科 …… 22
整形外科 …… 24
麻 酔 科 …… 26
医療情報部
診療情報管理室 …… 28
情報システム課 …… 29
メディカルクラーク課 …… 30
医療技術部
リハビリテーション科 …… 31
栄 養 科 …… 32
薬 剤 科 …… 33
放射線科 …… 34
臨床検査科 …… 35
臨床工学科 …… 36
看 護 部
看 護 部 …… 37
外　　来 …… 39
２階病棟 …… 40
３階病棟 …… 41
手 術 室 …… 42
事 務 部
医療事務課 …… 44
明野中央在宅医療介護センター
明野中央介護支援センター …… 45
訪問看護ステーションふくろう …… 46

クリニカル・インディケーター …… 47

委員会報告
委 員 会
医療安全管理委員会 …… 56
感染対策委員会 …… 58
褥瘡・栄養対策委員会 …… 59
教育委員会 …… 60
そ の 他
糖尿病相談会 …… 61
ＶＴＥ（静脈血栓塞栓症）対策チーム …… 62

ニュースリリース …… 63

地域交流会（ふくろうの会）

活動内容

当院は、病院理念に「医療・介護を通じ、患者さんの生活の質の向上に努める」を掲げ、地域の皆様から安心信頼される病院作りを目指し日々努力しています。真に地域に根ざした医療機関として、皆様方の期待に応えられる病院としてのあるべき姿を模索しています。

ふくろうの会は、広く地域の皆様方と意見交換を行い、医療全般に関する苦情、要望、地域の病院として当院の果たす役割等についてご意見を頂きたく2004年９月に発足しました。近隣の自治会の方を中心に、年に数回お集まりいただき、病院の近況報告、病院への要望等の意見交換をしています。

メンバー　2020年３月現在（敬称略）

湯田　国男（ふくろうの会会長）
前田　重晴（明野日の出町自治会長）
甲斐田生嗣（明野高尾自治会長）
脇　　将章（明野東町自治会長）
晴山　悦朗（明野旭町自治会長）
由見　文洋（明野さつき町自治会長）

ボランティアの会

活動内容

花壇の花の手入れなどのグリーンボランティア、患者さんやお見舞い客にお茶やコーヒーを振る舞うティーパーティーの開催、健康関連講演会の企画やお手伝い等、当院の活動の一端を病院ボランティアの方々が担っています。

暑い夏や寒い冬にも病院の花壇にきれいな花が咲いているのは、ボランティアの方々の日頃の地道な活動のおかげです。春と秋に開催されるティーパーティーは、患者さんだけでなく病院職員にも大好評です。

メンバー　2020年3月現在（敬称略）

会　長　　志水　篤信
副会長　　赤田　久子
倉住れい子　　坂井　礼子　　佐々木友江　　高平　潤子
高木　美和　　石田　洋子　　佐藤　徳代　　宮崎美重子
奈良ムツ子

グリーンボランティア

ティーパーティー

病院概要（2020年３月現在）

診療科目

内科　整形外科　リウマチ科　消化器内科　形成外科　リハビリテーション科　麻酔科
放射線科　ペインクリニック内科

病床数

75床（一般）	２階病棟	一般病床：45床（地域包括ケア病床10床含む）
	３階病棟	回復期リハビリテーション病棟：30床

専門医研修施設

・日本整形外科学会研修施設
・日本手外科学会研修施設
・日本リハビリテーション医学会研修施設
・日本高血圧学会研修施設

学会認定　専門医・指導医

・日本内科学会　専門医
・日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医
・日本整形外科学会　専門医
・日本脊椎脊髄病学会　指導医
・日本手外科学会　専門医
・日本リハビリテーション医学会
　指導医　専門医
・日本リウマチ学会　指導医　専門医
・日本消化器病学会　専門医
・日本消化器内視鏡学会　専門医
・日本神経学会　専門医
・日本麻酔科学会　専門医
・日本ペインクリニック学会　専門医

介護保険事業

・訪問リハビリテーション
・通所リハビリテーション

関連施設

・訪問看護ステーションふくろう
・明野中央介護支援センター

施設基準

機能強化加算	がん治療連携指導料
急性期一般入院料１	薬剤管理指導料
診療録管理体制加算１	別添１の「第14の２」の１の（３）に規程する在宅療養支援病院
医師事務作業補助体制加算１	
急性期看護補助体制加算	在宅時医学総合管理料・特定施設入院時等医学総合管理料
療養環境加算	
感染防止対策加算２	検体検査管理加算Ⅱ
後発医薬品使用体制加算１	CT撮影及びMRI撮影
病棟薬剤業務実施加算１	外来化学療法加算１
データ提出加算	脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ
入退院支援加算１	運動器リハビリテーション料Ⅰ
認知症ケア加算３	呼吸器リハビリテーション料Ⅰ
せん妄ハイリスク患者ケア加算	椎間板内酵素注入療法
回復期リハビリテーション病棟入院料１	輸血管理料Ⅱ
地域包括ケア入院医療管理料１	輸血適正使用加算
入院時食事療養Ⅰ	麻酔管理料１
ニコチン依存症管理料	脊髄刺激装置植込術

職種別職員数

171名（2020年３月31日現在）

医師	９名	理学療法士	17名	臨床工学技士	１名
薬剤師	３名	作業療法士	９名	管理栄養士	２名
看護師	79名	言語聴覚士	２名	医療ソーシャルワーカー	３名
看護補助者	12名	診療放射線技師	５名	事務職員	25名
		臨床検査技師	４名		

病院沿革

1974（昭49）年１月	医療法人社団恵愛会 大分中村病院の分院として開院（病床数65床） 『救急指定病院』『労災指定病院』の指定取得
1978（昭53）年11月	『医療法人社団唱和会　明野中央病院』として、分離独立
1997（平９）年３月	社団法人日本整形外科学会認定医制度による『研修施設』認定取得
1999（平11）年５月	第一期増築工事完成（病床数70床） バイオクリーンルーム設置　ヘリカルCT設置
７月	身体障害者福祉法第19条の２の規定による『更生医療を担当する医療機関』の指定取得
2002（平14）年６月	第二期増築工事完成（病床数75床）
７月	MRI設置
９月	パワーリハビリテーション機器導入
2004（平16）年１月	一般病床45床、特殊疾患療養病棟（30床）に変更
2005（平17）年９月	一般病床のうち、８床を『亜急性期入院医療管理料』として届出
10月	日本医療機能評価機構　認定取得
2006（平18）年４月	『亜急性期入院医療管理料』を８床から10床に変更 院外処方箋発行開始
９月	マルチスライスCT設置
2007（平19）年２月	特殊疾患療養病棟（30床）を回復期リハビリテーション病棟（30床）に変更
2008（平20）年１月	日本手外科学会　基幹研修施設に認定
10月	回復期リハビリテーション病棟入院基本料１
2009（平21）年７月	『こつ・かんせつ・リウマチセンター』開設
11月	『日本リハビリテーション医学会　研修施設』に認定
2010（平22）年４月	『日本高血圧学会　研修施設』に認定 『日本静脈経腸栄養学会　NST稼働施設』に認定
９月	『日本リウマチ学会教育施設』に認定
10月	日本医療機能評価機構Ver.６更新
2014（平26）年４月	亜急性期病床（10床）を地域包括ケア病床（10床）に変更
2015（平27）年４月	『訪問看護ステーションふくろう』『明野中央介護支援センター』開設
９月	増改築工事　着工
2017（平29）年３月	増改築工事　完成
４月	日本脊椎脊髄病学会『脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設』に認定
2018（平30）年１月	通所リハビリテーション事業開始
2019（平31）年４月	多血小板血漿による再生医療等（PRP・APS療法）開始
2019（令１）年９月	西館１階リハビリテーションセンター拡張工事完成
2020（令２）年１月	日本医療機能評価機構　病院機能評価3rdG：Ver.2.0認定取得

創設者

中　村　　裕

当院は、1974年１月に創設者であり初代理事長である中村 裕により開設されました。

中村 裕は、日本ではまだ「リハビリテーション」という言葉も普及していなかった昭和30年代に当時の医療先進国イギリスに渡り、最新の医療事情、特に障がい者の社会復帰のためのリハビリテーションと障がい者スポーツを学びました。その経験を日本に持ち帰り、1965年に障がい者の社会復帰を支援する社会福祉法人「太陽の家」を創設しました。

整形外科の医師としては、大分中村病院（1966年12月）と明野中央病院という２つの病院を開設し、障がい者スポーツの分野では、東京パラリンピックや極東・南太平洋障害者スポーツ大会（フェスピック）などの開催に尽力しました。

1981年の国際障害者年を記念して中村の提唱により始まった「大分国際車いすマラソン大会」は、すでに長い歴史を刻み、今では世界最高レベルの障がい者スポーツ大会として世界中の車いすアスリートの目標となっています。

略　　歴

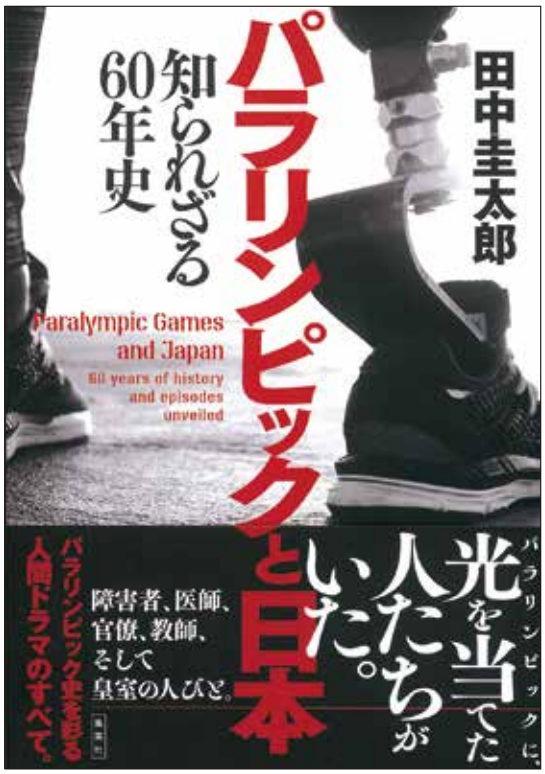
1951年	九州大学医学部卒業　同大学整形外科医局に入局
1960年	英国ストーク・マンデビル病院に留学
1961年	第１回大分県身体障害者体育大会を開催
1964年	東京パラリンピックの日本選手団長を務める（以降、1980年までの全ての夏季パラリンピックの団長を務める）
1965年	大分県別府市に、障がい者の自立を目的とした「社会福祉法人 太陽の家」を設立
1975年	第１回極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会（フェスピック）開催
1981年	第１回大分国際車いすマラソン大会の開催に尽力
1984年	死去　享年57

中村 裕とパラリンピックを紹介する図書

『日本のパラリンピックを創った男　中村 裕』
2019年８月５日発行／講談社／鈴木 款 著

『アナザー1964　パラリンピック序章』
2020年３月23日発行／小学館／稲泉 連 著

『パラリンピックと日本』
2020年４月29日発行／集英社／田中圭太郎 著



『パラリンピックの楽しみ方』
2016年８月６日発行／小学館／藤田紀昭 著

学会・研修会への参加

学　　会　　名	期　間	場所	参加者
AI・人工知能EXPO	2019年 ４月４日～５日	東京	佐藤　伸一 首藤　大樹
米国 HIP Education Meeting THAについて	４月12日～19日	米国	原　　克利
第63回　日本リウマチ学会	４月14日～15日	京都	藤川　陽祐
第48回　日本脊椎脊髄病学会	４月17日～19日	東京	吉岩　豊三
第48回　日本脊椎脊髄病学会	４月19日～21日	東京	中村英次郎
第６回　日本区域麻酔学会	４月19日～21日	高知	高谷　純司
第116回　日本内科学会	４月26日～28日	名古屋	木下　昭生
第30回　日本医学会総会	４月27日～29日	名古屋	中村英次郎
第105回　日本消化器病学会	５月８日～12日	金沢	西宮　　実
第92回　日本整形外科学会	５月11日～12日	横浜	中村英次郎
第92回　日本整形外科学会	５月11日～12日	横浜	藤川　陽祐
第60回　日本神経学会	５月22日～26日	大阪	宮崎　眞理
在宅の実践能力を高める講習会	５月25日	大分	後藤　由衣 佐藤　美咲
第97回　日本消化器内視鏡学会	５月30日～６月２日	東京	西宮　　実
第66回　日本麻酔科学会	５月31日～６月１日	神戸	高谷　純司
西日本脊椎研究会	５月31日～６月１日	博多	吉岩　豊三
第137回　西日本整形災害外科学会	６月１日～２日	博多	中村英次郎
第66回　日本麻酔科学会	６月１日	神戸	森　　正和
よくわかる心電図シリーズ１	６月４日	大分	梶原ひろ子 高橋　　愛
タリージェ発売記念講演会	６月15日～16日	博多	吉岩　豊三
第45回　日本骨折治療学会	６月29日	博多	中村英次郎
入退院支援のシステムづくりと入退院支援・退院支援・退院後訪問の実際	６月29日	博多	佐藤　善紀 高木　涼子
看護補助者のための研修	７月10日	大分	衛藤美奈子
第53回　日本ペインクリニック学会　研究発表	７月18日～20日	熊本	高谷　純司
国際モダンホスピタルショー	７月18日～20日	東京	佐藤　伸一
The 19th ATST meeting 2019	７月19日～20日	東京	吉岩　豊三
Great Expectations 2019	７月24日～25日	大阪	原　　克利
2019年度　全国栄養士大会	７月27日～28日	神戸	安部美早紀
第８回　大分県ハンドセラピー研修会セミナー	８月４日	大分	清原　貴明 春岡　宏明 木村　　舞
よくわかる心電図シリーズ２	８月21日	大分	梶原ひろ子 高橋　　愛
第58回　九州リウマチ学会	９月６日～８日	長崎	藤川　陽祐
第27回　日本腰痛学会	９月13日～14日	神戸	吉岩　豊三
第27回　日本腰痛学会	９月13日～14日	神戸	高谷　純司
第35回　日本診療放射線技師学術大会　発表	９月14日～17日	大宮	池田　義弘

学　　会　　名	期　間	場所	参加者
感染管理の基礎、標準予防策	９月14日	大分	有吉さおり 板屋　麗奈
第27回　日本腰痛学会	９月13日～14日	神戸	鈴木　京子 羽明ゆかり 金髙　仁美
第33回　臨床学術セミナー	９月28日～29日	東京	中村　佳子
第６回　日本転倒予防学会	10月４日～５日	新潟	山﨑　翔太 阿蘇野泰幸
第42回　日本高血圧学会	10月24日～27日	東京	木下　昭生
第46回　日本股関節学会	10月25日～26日	宮崎	原　　克利
第46回　日本股関節学会	10月25日～26日	宮﨑	鞭馬　貴史 佐藤　大輔 髙野　香奈
西日本脊椎研究会	11月１日～２日	広島	吉岩　豊三
認知症高齢者の看護実践に必要な知識	11月７日～８日	大分	園田美奈子 古川　　茜
第39回　日本臨床麻酔学会	11月８日～10日	軽井沢	高谷　純司
第14回　九州放射線医療技術学術大会　発表	11月８日～10日	熊本	山本　　聡
第６回　日本サルコペニア・フレイル学会 研究発表	11月９日～10日	新潟	鈴木　京子 小 山　　環 梶原ひろ子
セル看護方式による看護師の働き方改革	11月９日	大分	長島みゆき 前原　英子 芦刈　初美 工藤　玲子
第７回　日本難病医療ネットワーク学会	11月15日～16日	福岡	工藤　武子
JDDW 2019	11月20日～24日	神戸	西宮　　実
よくわかる心電図シリーズ３	11月21日	大分	梶原ひろ子 高橋　　愛
第29回　臨床内分泌代謝 Up date	11月28日～12月１日	高知	木下　昭生
社会福祉法人太陽の家 愛知事業本部　京都事業本部　視察	2020年 １月11日～13日	京都	中村英次郎
日本クリニカルパス学会	１月16日～18日	熊本	河野　麻美 鈴木　京子 長島みゆき 羽田野みきよ
Osteoporosis Diagnosis and Treatment Expert Meeting in KYUSHU	１月25日～26日	博多	吉岩　豊三
第41回　九州手外科研究会	１月31日～２月１日	熊本	中村英次郎
第10回　転倒予防指導士　基礎講習会	２月８日～９日	東京	阿蘇野泰幸 山﨑　翔太
第47回　日本リハビリテーション医学会 九州地方会	２月15日～16日	鹿児島	中村英次郎
第29回　日本障がい者スポーツ学会	２月15日	佐賀	大津　佑那 川島　隆史
第50回　日本人工関節学会	２月21日～22日	博多	原　　克利
第47回　日本リハビリテーション医学会 九州地方会	２月15日～16日	鹿児島	中村英次郎

新型コロナ対策！ 自宅でできる体操動画を公開

新型コロナウィルス感染拡大に伴い、全国的に外出自粛が叫ばれ、テレワークなど自宅で過ごす時間が多くなりました。しかし、「外出自粛は大事なことですが、家の中で“コロナ疲れ”していませんか？ 健康維持とストレス解消には体を動かすことが大切です！」ということで、当院リハビリテーション科スタッフが、誰もが自宅でできる体操メニューを考案し、実演動画を作成、YouTubeに公開しました。“コロナに負けるな！ 元気にステイホーム。お家でできるイキイキ体操、動画を見ながらやってみよう！”

https://youtu.be/ENa8iNpmBak

ＱＲコード

リハビリテーションセンターが広くなりました

2019年９月、１階のリハビリテーションセンターの拡張工事を行いました。従来の広さの約1.7倍になりました。新しいリハビリマシーンも導入しました。デイケア（通所リハビリテーション）の利用者も多くなってきました。思う存分、リハビリに汗を流してください！

吉岩医師の論文に奨励賞

第87回西日本脊椎研究会において、当院こつ・かんせつ・リウマチセンター脊椎外科部長の吉岩豊三医師が発表した論文『Wiltseアプローチによる腰椎椎弓根スクリューの設置における合併症の検討』が奨励賞を受賞しました。受賞に対して吉岩医師は、「診療や手術など忙しい毎日の中で、研究活動になかなか時間を割けない現状ですが、このような名誉ある賞をいただき大変恐縮しています。手術室スタッフはじめ多くの皆様の協力のおかげです。今後とも少しでも治療の成果や安全性向上に貢献できるよう精進します」と話していました。

病院機能評価認定

公益財団法人日本医療機能評価機構は、患者の命と向き合う医療現場に対し、その医療の質を担保するために備えているべき機能について、中立・公平な専門調査者チームによる「病院機能評価」審査を行い、一定の水準を満たした病院を「認定病院」としています。当院は、2019年10月にこの審査を受け、認定病院として認定されました。過去に2005年と2010年に認定を受けていましたが、病院の建設工事等もあり、認定更新ができていませんでした。今回改めて受審し、108の評価項目全てについて、一定の水準を満たしているという評価をいただきました。評価項目としては、「患者さんの視点に立って良質な医療を提供するために必要な組織体制」、「実際に医療を提供するプロセス」、「病院全体の管理・運営体制」など、108項目に及びました。当院の患者さんの治療症例を採り上げ、外来診療から入院に至る過程、入院中の手術、処置、薬剤の管理、退院に向けた支援等、実際に患者さんが遭遇する場面ごとに、当院スタッフが適切な対応をしたかどうかをチェックする「ケアプロセス調査」も受けました。医師、看護師等の全ての職種が日頃の業務を振り返り、自らの行動が科学的な根拠に基づく適切なものであるかどうかを確認する良い機会になりました。

認定をいただいたことで、単なる自己判断の医療ではない、いわゆる“第三者評価”をクリアできたということになります。今後とも、患者さんに満足していただける、質の高い医療レベルをキープできるよう努力を続けます。

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構
認定第 JC2345 号

新しい生活様式“オンライン面会のすすめ”
～離れていても、オンラインでも、心はつながる！～

意欲的に歩行訓練に取り組むＨさん

Ｈさん（91歳女性）は、ご自宅の台所で転倒し、左の肋骨、股関節、腰部痛の症状が出ました。「トイレに行けないので病院に迷惑をかけたくない」と病院受診をしばらく遠慮されており、ご主人の介護を受けながら自宅のベッドで２週間過ごしましたが、ご家族やケアマネージャーに説得されて当院を受診されました。左大腿骨転子部を骨折していたため緊急入院となり、翌日に手術を行い、入院３日目から回復期リハビリテーション病棟でのリハビリが始まりました。しかし、心不全や喘息などの基礎疾患に加え中等度の栄養不良もあり、リハビリをしても再び歩けるようになるかどうかという厳しい状況でした。リハビリ開始後も、術後の痛みや心不全による息苦しさ、繰り返す発熱、食欲不振などが重なり、歩行訓練へなかなか移行できない状態が続きました。

ご家族も大変心配されていましたが、コロナウイルス対策による面会制限もあり、病院での直接の面会もできず、ご本人を励ますことも難しい状況でした。しかし、当院スタッフがスマートフォンのビデオ通話によるオンライン面会を提案したところ、ご家族もこれを積極的に活用され、Ｈさんもタブレット越しにご家族や親戚の皆さんと幾度も面会され、励ましのメッセージを受けて、「一人で歩いてトイレに行けるようになりたいね」と前向きな会話が増えていきました。離れていても、オンラインでも、気持ちは通じたようです。

身体的には厳しい状態ではありましたが、タブレットから送られてくるご家族の笑顔や応援を力に変えて意欲的にリハビリに取り組まれるようになりました。その結果、1ヶ月後には平行棒の中を再び歩けるようになり、主治医やスタッフもその驚異的な回復力に驚かされています。どんな形でも励ましやサポートを続けてきたご家族の愛情と、高齢の小さな体でしっかりと前を見て歩くＨさんの姿から元気と勇気をいただき、コロナ禍の閉塞した気持ちがスッと晴れていくように感じました。

（地域医療連携室：Y.S）